

千代田町立千代田中学校等施設整備基本構想

令和6(2024)年10月

千代田町教育委員会

目 次

1	はじめに.....	1
1-1	千代田町の小中学校.....	1
1-2	上位計画における今後の方針	1
1-3	基本構想の目的	1
2	千代田町の人口	2
2-1	人口減少と少子高齢化	2
2-2	今後の人口推移	2
3	町内の小中学生数及び学級数の推移	3
3-1	小学校.....	3
(1)	児童数の推移	3
(2)	学級数の推移	4
3-2	中学校.....	5
(1)	生徒数の推移	5
(2)	学級数の推移	5
4	町内の小中学校の校舎の現状	6
4-1	各学校施設の現状	7
(1)	千代田中学校	7
(2)	西小学校	8
(3)	東小学校	8
5	学校についてのアンケート	9
5-1	アンケートの目的	9
5-2	アンケート概要.....	9
(1)	アンケート対象と実施時期等	9
(2)	アンケート内容	10
5-3	アンケート結果概要	11
(1)	設問 4.保護者の立場から、小中一貫校とした場合の教育に期待すること	11
(2)	設問 5.保護者の立場から、小中一貫校とした場合の教育に不安を感じること	12
(3)	設問 7.保護者の立場から、小中一貫校とした場合の校舎(建物・設備など)に期待すること	13
6	今後の方針を検討するうえで考慮すべきこと	14
7	今後の方針ごとの課題	15
7-1	児童・生徒数の減少について	15
7-2	各学校(千代田中学校、西小学校、東小学校)の老朽化について	15
7-3	既存施設の有効活用による費用面への配慮について	15
7-4	学校の安全対策と学習環境の課題について	15
7-5	子どもたちや千代田町民の皆様と考える千代田町に適した学校について	16

1 はじめに

1-1 千代田町の小中学校

町内には、千代田町立千代田中学校（以下、「千代田中」という。）、千代田町立西小学校（以下、「西小」という。）、千代田町立東小学校（以下、「東小」という。）の 3 つの公立学校があります。もっとも古い校舎が残っているのは千代田中で、昭和 41(1966)年 4 月 1 日に学校統合により千代田中となった 2 年後の昭和 43(1968)年 8 月に竣工し、竣工後 56 年が経過した校舎が今も使用されています。また、西小は昭和 54(1979)年竣工(竣工後 45 年経過)の校舎、東小は昭和 49(1974)年竣工(竣工後 50 年経過)の校舎がそれぞれの学校で最も古く、現在も使用されています。

1-2 上位計画における今後の方針

千代田町公共施設等総合管理計画(平成 28(2016)年 3 月策定(令和 4(2022)年 3 月改定))によると、令和 9(2027)年度に千代田中の建替え等の対策を図る必要があるとされ、続く令和 16(2034)年度には東小の建替え等の対策を図る必要が生じるとされるなど、町内の小中学校は、次々と対応を行う必要に迫られているのが現状です。町内の学校施設の現状を見ると、千代田中、西小、東小ではそれぞれに校舎の各所に劣化がみられるようになってきており、各校に通学する児童生徒の安全性を確保することはもちろん、地域の避難所としての役割を有していること、特に千代田中は町内唯一の中学校であることから、町全体として学校施設の建替え又は長寿命化改修、大規模改修等を検討し、計画的に実施する必要があると判断しました。

1-3 基本構想の目的

千代田町中学校施設整備基本構想（以下、「基本構想」という。）では、現在、千代田中、西小、東小に通学する児童生徒の学習環境と安全を保ちながら、地域の避難所としての機能を保持しつつ、将来も千代田町の学校教育を提供し続けることが最重要と捉えています。その中で、現状を確認し、建替え等の対策を図る際に配慮すべきことを確認し、今後の施設整備に係る諸条件として把握することを目的としています。

2 千代田町の人口

2-1 人口減少と少子高齢化

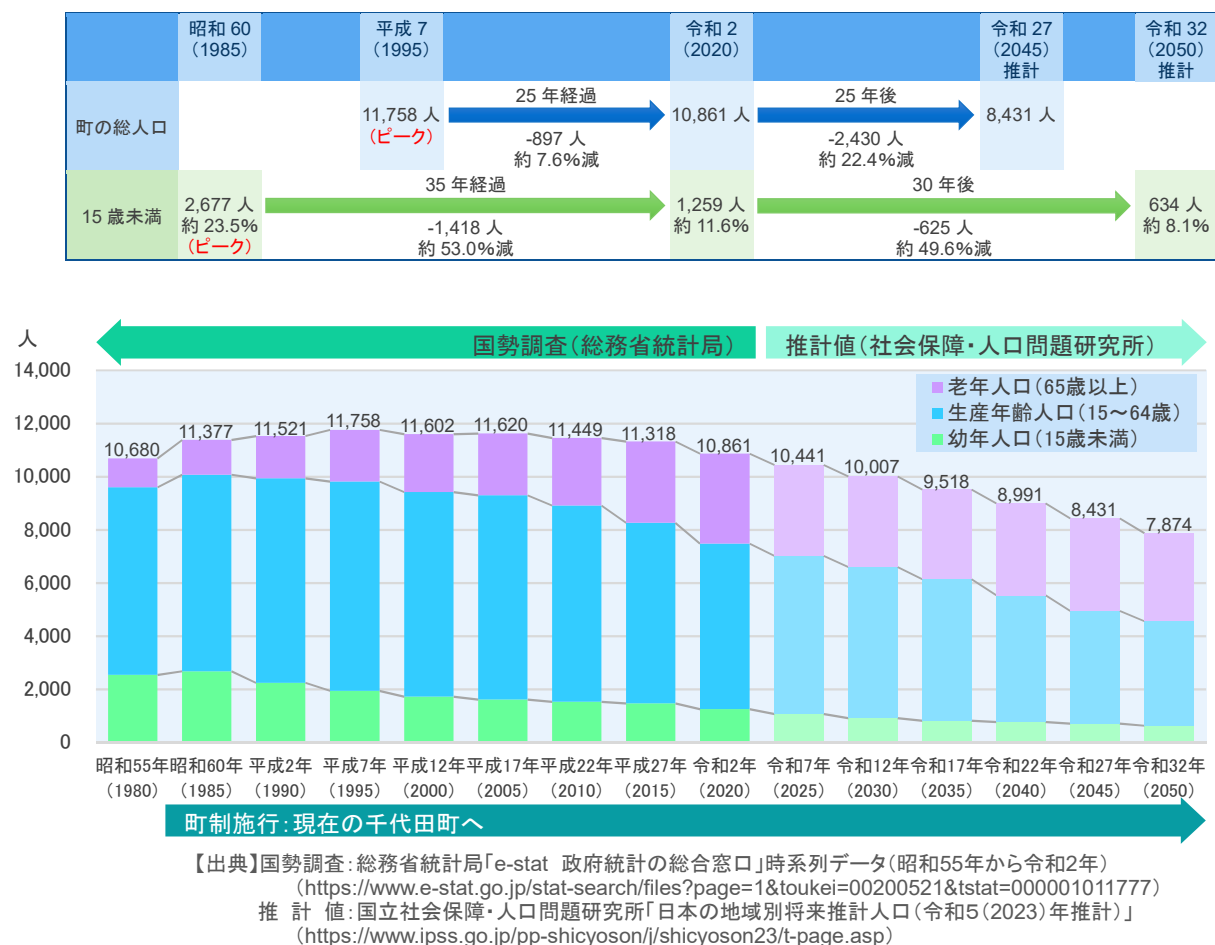
千代田町でも人口減少と少子高齢化は進んでいます。昭和 57(1982)年 4 月 1 日の町制施行後、ピーク時は 11,758 人(平成 7(1995)年国勢調査)の町民が居住していましたが、その後人口減少と少子高齢化が進み、25 年経過した令和 2(2020)年国勢調査では 10,861 人(平成 7(1995)年比-897 人、約 7.6%減)となりました。

2-2 今後の人口推移

今後も人口減少と少子高齢化は進むと予測されています。令和 27(2045)年には 8,431 人(令和 2(2020)年比-2,430 人、約 22.4%減)まで減少すると予測されており、今後は令和 2(2020)年までの 25 年間と比べて 3 倍近い減少速度で人口減少が続くと予測されています。

幼年人口(15 歳未満)の減少傾向は特に顕著で、昭和 60(1985)年の 2,677 人をピークに、35 年経過した令和 2(2020)年には 1,259 人(昭和 60(1985)年比-1,418 人、約 53.0%減)と半数以下、町民の約 11.6%まで減少しています。その 30 年後の令和 32(2050)年には 634 人(令和 2(2020)年比-625 人、約 49.6%減)となり、更に半数程度まで減少すると予測されています。

図・グラフ 千代田町の人口の推移



3 町内の小中学生数及び学級数の推移

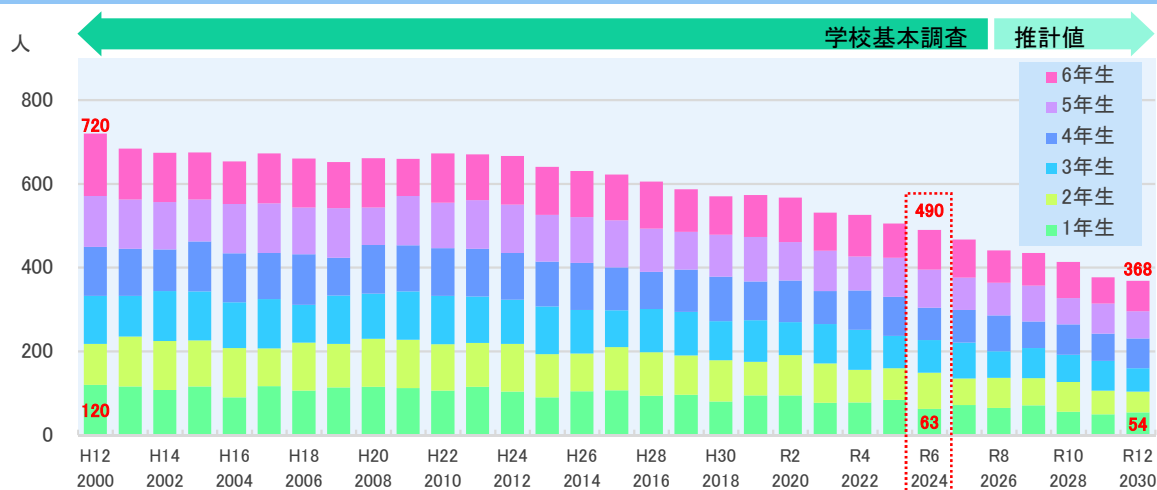
3-1 小学校

(1) 児童数の推移

児童数(小学校1年生から6年生まで)は減少傾向にあります。平成12(2000)年度の720人と比較すると、令和6(2024)年度の児童数は490人であり、24年間で-230人(約31.9%減※1年あたり平均9～10人減少)となっています。さらに令和12(2028)年度には-122人(約24.9%減※1年あたり平均20～21人減少)となる368人程度と予想されています。近年になると児童数の減少幅が拡大していることもわかります。

小学校1年生の人数は、平成12(2000)年度の120人と比較すると、令和6(2024)年度時点で西小、東小あわせて63人であり、24年間で-57人(約47.5%減※1年あたり2～3人減少)となっています。さらに令和12(2030)年度には-9人(約14%減※1年あたり2～3人減少)となる54人程度と予想されています。

グラフ 小学校児童数の推移



【出典】令和6(2024)年まで: 学校基本調査(群馬の統計情報提供システム オープンデータサイト)
(<https://toukei.pref.gunma.jp/gkt/>)
令和7(2025)年以降: 千代田町住民基本台帳(令和6(2024)9月時点)

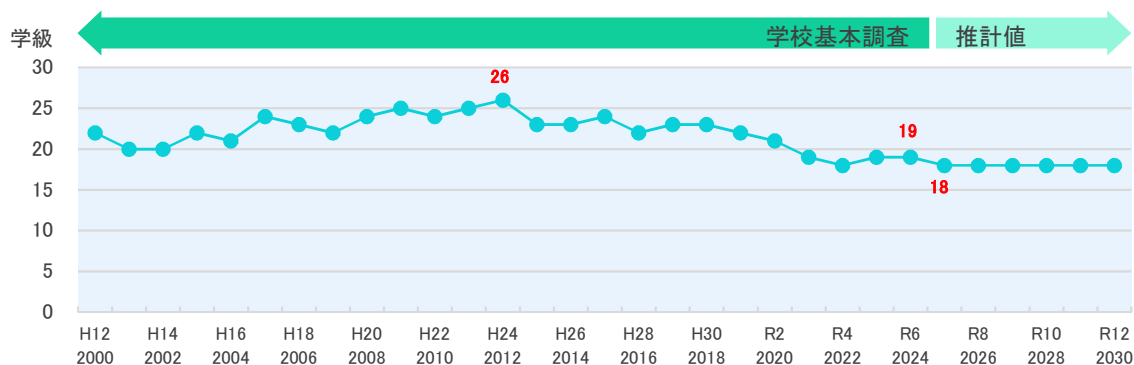
(2) 学級数の推移

グラフ1のとおり、学級数は減少傾向にあります。平成12(2000)年度以降は、平成24(2012)年度で2小学校(西小及び東小)あわせて最大26学級ありましたが、その後は減少傾向に転じ、令和6(2024)年度現在、19学級に減少しています。

今後は、西小の学級数も1学年2学級になると予想され、当面は2小学校あわせて18学級が続く見込みですが、文部科学省では、小中学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とする(学校教育法施行規則第41条及び第79条)と示していますので、東小の学級数はこれを満たしていない状況にあります。

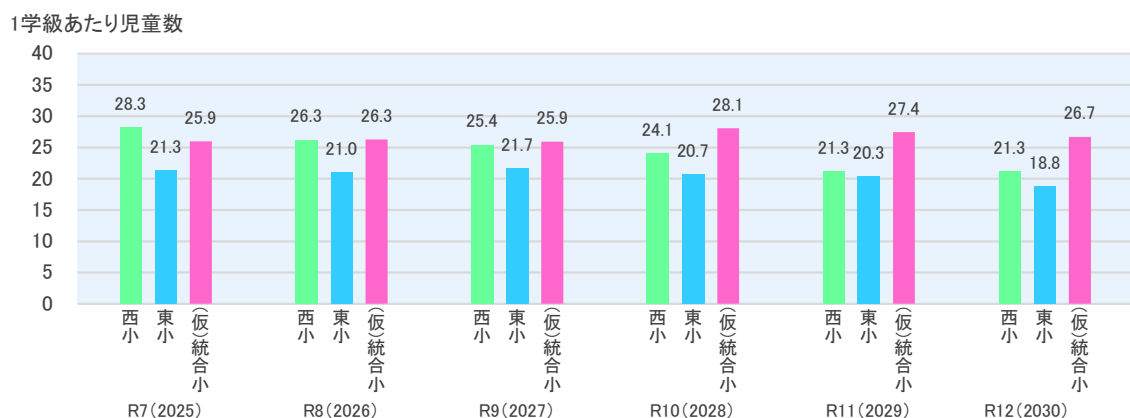
学級数に変化はありませんが、グラフ2のとおり、1学級あたりの児童数をみると、西小、東小とも少人数化が進むと予想されます。仮に、2校を統合した(仮)統合小学校の場合をみると、令和7(2025)年度までは西小学校のほうが多いものの、令和8(2026)年度以降は現在の西小学校に近い1学級あたりの人数が実現できると予想されます。

グラフ1 小学校学級数の推移



【出典】令和6(2024)年まで：学校基本調査(群馬の統計情報提供システム オープンデータサイト)
(<https://toukei.pref.gunma.jp/gkt/>)
令和7(2025)年以降：千代田町住民基本台帳(令和6(2024)9月時点)

グラフ2 小学校1学級あたりの児童数の推移(推計)



【出典】千代田町住民基本台帳(令和6(2024)9月時点)

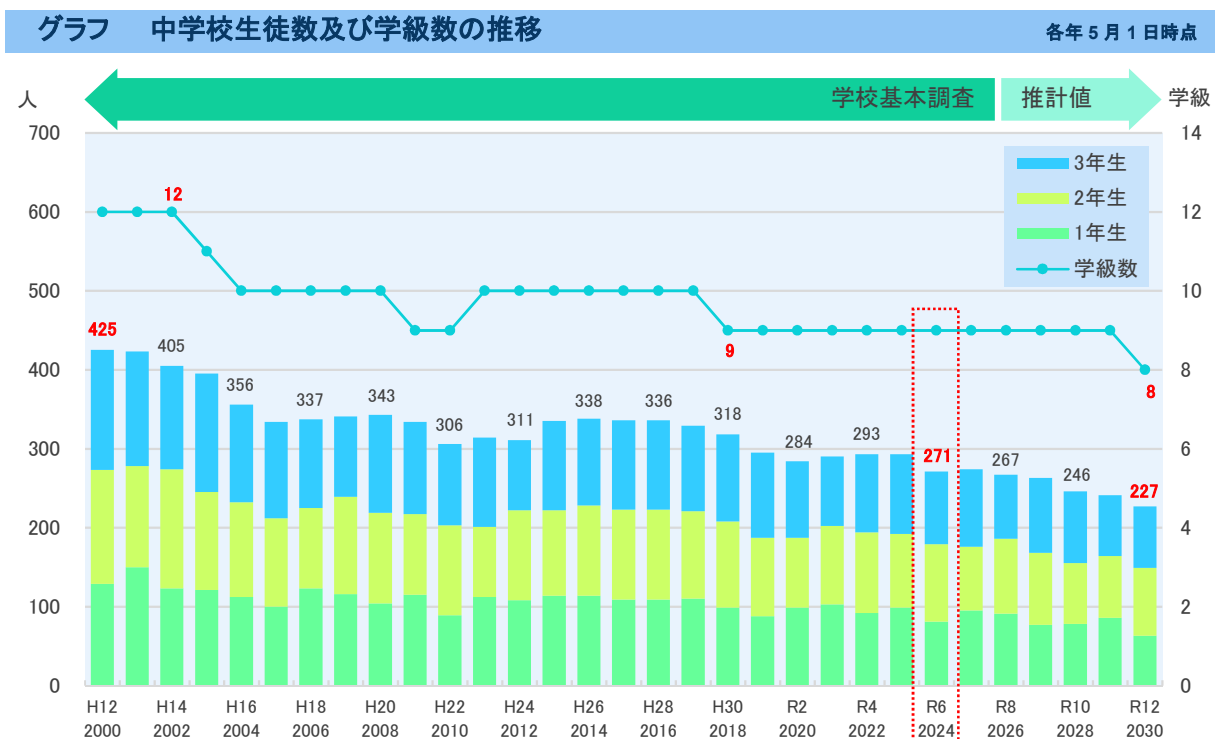
3-2 中学校

(1) 生徒数の推移

生徒数(中学校 1 年生から 3 年生まで)は減少傾向にあります。平成 12(2000)年度の 425 人と比較すると、令和 6(2024)年 5 月 1 日時点の生徒数は、24 年間で-154 人(約 36.2%減※1 年あたり平均 6~7 人減少)となっています。さらに令和 12(2030)年度には-44 人(約 16.2%減※1 年あたり平均 7~8 人減少)となる 227 人程度と予想されています。児童数ほどではありませんが、近年になると生徒数の減少幅も拡大していることがわかります。

(2) 学級数の推移

学級数は減少傾向にあります。平成 12(2000)年度以降は、平成 24(2012)年度で最大 12 学級ありましたが、減少を続け、平成 30(2018)年度以降、現在まで 9 学級が続いています。今後も 9 学級が続く見込みですが、令和 12(2030)年度の 1 年生が 2 学級となり、千代田中全体で 8 学級となる可能性があります。



【出典】令和6(2024)年まで: 学校基本調査(群馬の統計情報提供システム オープンデータサイト)
(<https://toukei.pref.gunma.jp/gkt/>)
令和7(2025)年以降: 千代田町住民基本台帳(令和6(2024)年6月時点)

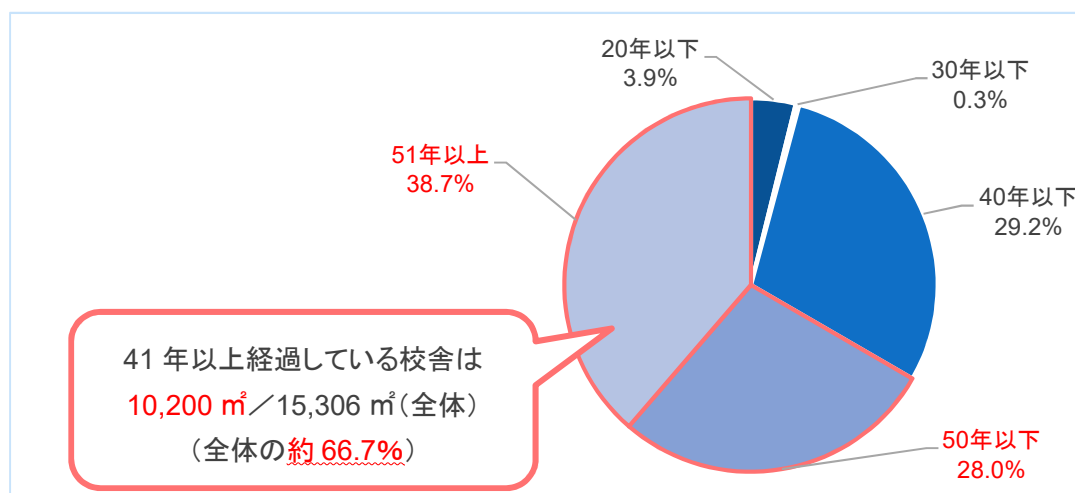
4 町内の小中学校の校舎の現状

「建築物の耐久計画に関する考え方(日本建築学会著、1988 年)」では、建築物の用途及び構造種別による、望ましい目標耐用年数が示されています。普通品質の場合の鉄筋コンクリート造及び鉄骨造については、いずれも範囲 50～80 年(代表値 60 年)とされています。また、「学校施設の長寿命化改修の手引～学校のリニューアルで子供と地域を元気に！～(文部科学省著、2014 年)」によると、従来は建築後 40 年程度で建て替えが行われていたということです。

町内の小中学校の校舎は、下表のとおり建築後の経過年数が 40 年を超える校舎が多く、千代田町全体の約 66.7%に相当する面積が、建築後 41 年を超える校舎となっています。

表 各学校の校舎概要

学校名	棟	構造	階数	延床面積	建築年	経過年数
千代田中	校舎	鉄筋コンクリート造	2・3 階	3,463 m ²	昭和 42(1967)-43(1968)	56-57 年
	特別教室棟	鉄骨造	1 階	389 m ²	昭和 43(1968)	56 年
	体育館	鉄骨造	1 階	733 m ²	昭和 44(1969)	55 年
	武道館	鉄骨造	1 階	565 m ²	平成 22(2010)	14 年
	レスリング場	鉄骨造	1 階	167 m ²	昭和 62(1987)	37 年
	給食室	鉄骨造	1 階	26 m ²	平成 23(2011)	13 年
	部室	鉄骨造	2 階	184 m ²	平成 3(1991)	33 年
西小	校舎	鉄筋コンクリート造	3 階	2,779 m ²	昭和 54(1979)	45 年
	特別教室棟	鉄筋コンクリート造	3 階	2,402 m ²	昭和 60(1985)	39 年
	体育館	鉄骨造	1 階	684 m ²	昭和 47(1972)	52 年
東小	校舎	鉄筋コンクリート造	2 階	1,503 m ²	昭和 49(1974)-50(1975)	49-50 年
	特別教室棟	鉄筋コンクリート造	2 階	1,712 m ²	昭和 59(1984)	38 年
	体育館	鉄骨造	1 階	649 m ²	昭和 47(1972)	52 年
	生活科教室	鉄骨造	1 階	50 m ²	平成 7(1995)	29 年



4-1 各学校施設の現状

(1) 千代田中学校

外部、内部ともに建物の劣化が進み、各所で雨水の浸入が主要因と推察される劣化が見受けられます。さらに劣化が進むと、塗装や天井ボード等のはく落につながる恐れもあり、生徒の安心安全な学校生活のために修繕等を行っていますが、劣化の範囲が広いため間に合っていない。

写真 千代田中学校の様子



(上写真)千代田中学校の校舎の様子	(上写真)校舎外部の様子
◆ 建物の南面 ◆ 普通教室は2階建て特別教室が3階建て ◆ 2階建て校舎と3階建て校舎は接続している	◆ 塗装が各所でフクレてしまっている (雨水の浸入などが要因と考えられる)



(上写真)校舎内部の様子	(上写真)校舎内部の様子
◆ 壁の塗装が各所ではく離している (雨水の浸入などが要因と考えられる)	◆ 雨漏りが各所で発生している (建物の劣化が進むおそれ)

(2) 西小学校

建物の劣化が進み、室内天井各所で雨水の浸入跡が見受けられます。さらに劣化が進むと、建物の劣化はもちろん、天井ボード等のはく落につながる恐れもあり、児童の安心安全な学校生活のために修繕等を行う必要があります。

写真 西小学校の様子



(上写真)西小学校の校舎の様子	(上写真)校舎内部の様子
◆ 建物の南面 ◆ 写真手前は特別教室棟 ◆ 普通教室棟、特別教室棟とも3階建て	◆ 雨漏りが各所で発生している (建物の劣化が進むおそれ)

(3) 東小学校

屋上の防水シートの劣化が各所で見受けられます。さらに劣化が進むと、建物への雨水浸入につながり、様々な劣化の要因になりますので、児童の安心安全な学校生活のために修繕等を行う必要があります。

写真 東小学校の様子



(上写真)東小学校の校舎の様子	(上写真)校舎内部の様子
◆ 建物の東面(正面が昇降口) ◆ 写真左が低学年教室と特別教室 ◆ 写真右が低学年以外の普通教室	◆ 屋上のシート防水がはく離して裂けている (雨水浸入が生じ建物劣化が進むおそれ)

5 学校についてのアンケート

5-1 アンケートの目的

児童・生徒数の減少と、学校施設の老朽化という、町内の3小中学校の2つの大きな課題について、千代田町に育ち、千代田町の将来を支える子どもたちの学びの場を守ることを最優先に、地域の防災、多世代交流、省エネルギーなど、これからの千代田町としてあるべき学校の姿を、町民の皆様のご意見を参考にしながら実現するために、千代田中、西小、東小、西こども園、東こども園に通学・通園する子どもたちの保護者の皆様へ、アンケートを実施しました。

5-2 アンケート概要

(1) アンケート対象と実施時期等

アンケートは以下のとおり実施し、こども園、小学校、中学校に通園・通学している子どもたちの保護者の立場からのご意見をいただきました。

表 アンケート対象とアンケート実施時期等

アンケート対象		実施時期	実施方法
保護者アンケート (回答者:438名)	町内のこども園、小学校、中学校に通園・通学する子どもたちの保護者	令和6(2024)年6月19日 ～ 令和6(2024)年6月30日	Web フォーム

※ アンケート結果の概要は、アンケートにご協力いただいた保護者の皆様へメール送付しました。

(2) アンケート内容

下表のようなアンケート内容でアンケートを実施しました。

今後の整備方針を検討する上で、園児・児童・生徒の保護者の皆様のご意見のうち、設問4、5、7について、小学校区ごとの傾向を確認しました。

表 保護者アンケートの内容

質問内容
設問1. 現在お住まいの地区
設問2. 令和6(2024)年6月1日時点の中学生以下のお子様の人数
設問3. 小中一貫校とした場合の検討を進めていく中で、あなたへの定期的な情報発信方法
設問4. 保護者の立場から、小中一貫校とした場合の教育に期待すること
設問5. 保護者の立場から、小中一貫校とした場合の教育に不安を感じることに期待すること
設問6. その他、小中一貫校とした場合の教育への期待や不安、検討してほしいこと(自由記述)
設問7. 保護者の立場から、小中一貫校とした場合の校舎(建物・設備など)に期待すること
設問8. その他、小中一貫校とした場合の校舎(建物・設備など)へ期待すること(自由記述)
設問9. 小中一貫校の検討の進め方について、行われるべき工夫
設問10. 小中一貫校とした場合の建設工事の進め方について、行われるべき工夫
設問11. その他、小中一貫校や建て替えについてのご意見(自由記述)

5-3 アンケート結果概要

(1) 設問4.保護者の立場から、小中一貫校とした場合の教育に期待すること

この設問に対して7問の質問を設けましたが、そのうち保護者の期待度が高い質問を、学校区ごとに把握しました。

どちらの学校区でも、時代に合わせた情報教育への期待が最も高く、次いで、小学校から中学校へ進学する際の学習環境への期待が見受けられました。

表 設問4のうち期待度が高い質問(学校区ごと、上位3質問)

西小学校区の保護者	東小学校区の保護者	期待度
5.インターネットなどの通信設備を整えて、時代に合わせた情報教育を行う 期待する, 34% やや期待する, 49% あまり期待しない, 11% 期待しない, 6%	5.インターネットなどの通信設備を整えて、時代に合わせた情報教育を行う 期待する, 36% やや期待する, 38% あまり期待しない, 16% 期待しない, 10%	高
4.中学生になっても、小学生の時を知る先生が近くにいることの安心感 期待する, 25% やや期待する, 44% あまり期待しない, 18% 期待しない, 13%	2.中学校へ進学する時に、学習環境や生活環境の変化が少なくなる 期待する, 23% やや期待する, 49% あまり期待しない, 19% 期待しない, 9%	
2.中学校へ進学する時に、学習環境や生活環境の変化が少なくなる 期待する, 18% やや期待する, 53% あまり期待しない, 17% 期待しない, 12%	4.中学生になっても、小学生の時を知る先生が近くにいることの安心感 期待する, 36% やや期待する, 38% あまり期待しない, 16% 期待しない, 10%	

(2) 設問 5.保護者の立場から、小中一貫校とした場合の教育に不安を感じること

この設問に対して 5 問の質問を設けましたが、そのうち保護者の不安度が高い質問を、学校区ごとに把握しました。

どちらの学校区でも、通学距離が増えることへの不安が最も高く、次いで、小学校から中学校への進学の際の変化が少ないことに起因する不安が見受けられました。また、東小は現在 1 学年 1 学級のため、統合することで人数が現状の倍以上に変化することへの不安が見受けられました。

表 設問5のうち不安度が高い質問(学校区ごと、上位3質問)

西小学校区の保護者	東小学校区の保護者	不安度 高 ↑
2.通学距離が長くなり、児童生徒や保護者の負担が増える 	2.通学距離が長くなり、児童生徒や保護者の負担が増える 	
5.高校へ進学する時に、学習環境の変化が大きくなる 	5.高校へ進学する時に、学習環境の変化が大きくなる 	
1.学習環境が 9 年間変化しないのでメリハリがなくなる 	4.児童生徒の人数が増えるため、落ち着かない、にぎやかになる 	

(3) 設問7.保護者の立場から、小中一貫校とした場合の校舎(建物・設備など)に期待すること

この設問に対して 12 問の質問を設けましたが、そのうち保護者の期待度が高い質問を、学校区ごとに把握しました。

どちらの学校区でも、防災・防犯性能についての期待度が高い傾向が見受けられました。また、西小学校区では小学生と中学生がそれぞれ活用できる運動施設について、東小は千代田中や西小から離れていることもあり、通学のためのスクールバスに対する期待が最も高い傾向が見受けられました。

表 設問7のうち期待度が高い質問(学校区ごと、上位3質問)

西小学校区の保護者	東小学校区の保護者	期待度
5.防災性能や防犯性能を備え、児童生徒の生活の安全に配慮している 	6.児童生徒の通学のため、新たにスクールバスを運行する 	高
8.災害時の地域の避難所として必要な設備や機能の充実 	5.防災性能や防犯性能を備え、児童生徒の生活の安全に配慮している 	
3.小学生と中学生が、それぞれ安全に利用できる運動施設がある 	8.災害時の地域の避難所として必要な設備や機能の充実 	

6 今後の方針を検討するうえで考慮すべきこと

劣化が進み、児童生徒数の減少も進む学校環境を、千代田町に育つ子どもたちにとって安心安全に通学し、これからの時代に合わせた教育が実現できるようにすることが求められています。また、小中学校はいずれも地域の避難所・避難場所としての施設でもありますので、その機能が確保できるだけの性能を維持する必要があります。

そのためには、小中学校をどのような形にすべきか検討することが必要となりますが、これを実現する間に各種工事が発生してしまうことは避けられず、その間の学習・生活環境の質を維持すること、地域の避難所・避難場所としての機能を維持することも重要であると考えています。一方で、この事業の費用負担が大きくなりすぎると、将来負担が増えてしまうという懸念もあるため、初期投資額だけではなく、将来的な運用費用等も見据えた方針とすることが重要です。

工事期間中も、学校のさまざまな機能を維持しながら、通学する児童生徒の安心安全を保ち、現在と将来の千代田町に育つ子どもたちのための学習環境を整備する方針とすることが求められます。

表 各種整備方針とそれぞれの要配慮事項

	① 各学校を長寿命化	② 各学校を建替え	③ 学校を統合※1 (長寿命化)	④ 学校を統合※1 (建替え)
仮設校舎	・ 必要	・ 不要	・ 必要	・ 不要
学校の広さ	・ 現在のまま(将来的に余剰教室が出る)	・ 適正規模で建設可能	・ やや適正規模化	・ 適正規模で建設可能
新たな敷地の取得	・ 不要	・ 必要※2	・ 不要	・ 必要※3
工事中の学習・生活環境	・ 課題あり(騒音・振動・日照 等)	・ 課題なし	・ 課題あり(騒音・振動・日照 等)	・ 課題あり(グラウンド狭小)※4
初期投資	・ 新築よりも安価となる傾向	・ 敷地取得費用負担増※2	・ 新築よりも安価となる傾向	・ 敷地取得費用負担増※3
運用費用	・ 新築よりも運用期間が短くなる傾向	・ 適正規模で建設されるため現状よりも運用費削減可能	・ 新築よりも運用期間が短くなる傾向	・ 小学校規模が適正化され、より適正規模で建設され、運用費削減可能

※1 統合は、小学校のみ、または小中一貫校が考えられるが、小中一貫校とする場合には、小学校と中学校のカリキュラムの違いに配慮した配置計画及び平面計画が重要

※2 西小、東小は既存敷地にゆとりがないため、新たな土地を取得して建替えを行う必要がある

※3 統合した学校を千代田中の敷地内に建替えを行うことも可能であるが、新たな土地に建替えを行う場合は必要となる

※4 統合した学校を千代田中の敷地内に建替えた場合、グラウンドの一部が使用できなくなる

7 今後の方針ごとの課題

千代田町に育ち、千代田町の将来を支える子どもたちの学びの場を守ることを最優先に、地域の防災、多世代交流、省エネルギーなど、これからの千代田町としてあるべき学校の姿を実現するために以下の課題について対策を講じる方針とします。

7-1 児童・生徒数の減少について

児童・生徒数の減少は、少人数教育が可能になるという良い点と、少子化が進んだ学校では、集団で実施する学びや活動の機会(運動会、クラブ・部活動 など)が成立しにくくなり、子どもたちの学び・体験の機会は減ってしまうという課題点がある状態になってしまいます。

町内の児童・生徒数の減少が著しい中で、「少人数教育の良いところ」があつて「集団で行う学びや活動の機会」も得られるような、千代田町に適した学校のあり方を実現できるよう、千代田町にある3小中学校すべてを対象とし、小中一貫校を視野に入れた検討を行います。

7-2 各学校(千代田中学校、西小学校、東小学校)の老朽化について

千代田中学校をはじめ、西小学校、東小学校も老朽化が進んでいます。長寿命化工事で80年使うことも可能といわれますが、子どもたちが学校を使いながら、それぞれの校舎を1年以上かけて、莫大な費用を投じて工事をするのはあまり現実的ではありませんし、可能な限り仮設校舎を使用した学習環境にならないように工事等を行いたいと考えています。

各学校の老朽化が進む中で、「今の子どもたちの学習環境」を守りながら「これからの千代田町の学校教育」が実現できるような、町の将来を支える世代の小中一貫校のあり方を検討します。

7-3 既存施設の有効活用による費用面への配慮について

可能な限り既存施設を有効活用できる学校用地は、敷地にゆとりがあり、築14年の武道館があり、町の中心地に位置するという、立地にも恵まれた千代田中学校が候補地のひとつに挙げられると考えています。その際、千代田中学校敷地を活用する場合でも、敷地内の既存施設は、建設時及び運用面の費用を確認しながら、有効活用すべき施設は継続して利用していくなど、費用面へも検討します。

7-4 学校の安全対策と学習環境の課題について

小中一貫校を検討するうえで、重要となるものの1つは、学校に通学する児童・生徒の安全対策です。小中一貫校になると、通学路や通学距離が変わることも考えられますし、出入りする人も変化する可能性があります。通学する児童・生徒の安全性を最重点課題としながら、千代田町に適した学校の姿となるように検討します。

もう1つは、児童生徒の学習環境です。2小学校が1小学校になることで小学校1年生から6年生の児童は一緒に学ぶクラスメイトが増え、環境の変化に戸惑う場面もあるかと思えますし、小学生と中学生が同一敷地内で学校生活を送ると、授業時間の違いや定期試験の有無など、カリキュラムの違いも生じます。町や教員のサポートはもちろん、保護者や地域の皆様のご理解とご

協力のもと地域ぐるみで支えていただきたいのはもちろんですが、施設面からの対策として、小学校と中学校の教室は別棟とするなど、校舎の配置計画への配慮を検討します。

7-5 子どもたちや千代田町民の皆様と考える千代田町に適した学校について

これからの千代田町としてあるべき学校の姿の実現のためには、各学校に通学する子どもたちやその保護者の皆様、千代田町に住む町民の皆様のご理解やご意見が重要となります。皆様のご意見を賜りながら、より良い学校の姿を実現するために、定期的な情報発信や説明の場を設けて、町民の皆様とともに児童生徒が誇れる千代田町の学校をつくりあげたいと考えています。

千代田中学校等施設整備基本構想

令和 6(2024)年 10 月
千代田町教育委員会